

# 新潟市

## 当事者も 家族も 支援者も つながる つなげる

新潟市では・・・

誰もが安心して自分らしく生活することができるよう、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築を進めるための保健・医療・福祉関係者による協議の場として、既存の会議に当事者や家族を委員として加え拡充し、「新潟市精神障がいの地域生活を考える会」を令和2年度に設置しました。

精神障がいの有無や程度にかかわらず、人と人、人と社会がつながりながら生活できる地域を目指します。

# 1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

**新潟市(8区)**  
※平成19年度～指定都市



- 【取組内容】
- 「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」全体会（年2回）の開催
  - ワーキンググループ（年20回程度）による活動  
「人材育成班」「ピア活動班」「企画・調査班」



基本情報（都道府県等情報）				
障害保健福祉圏域数（R6年4月時点）	1	か所		
市町村数（R6年4月時点）	1	市町村		
人口（R6年4月時点）	767,713	人		
精神科病院の数（R6年4月時点）	10	病院		
精神科病床数（R6年4月時点）	2,361	床		
入院精神障害者数 （R5年6月時点）	合計	1,737	人	
	3か月未満（％：構成割合）	318	人	
		18.3	％	
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	269	人	
		15.5	％	
	1年以上（％：構成割合）	1,150	人	
	66.2	％		
入院精神障害者数 （R5年6月時点）	うち65歳未満	411	人	
	うち65歳以上	739	人	
		739	人	
退院率（R3年6月時点）	入院後3か月時点	66.7	％	
	入院後6か月時点	81.4	％	
	入院後1年時点	87.6	％	
相談支援事業所数 （R6年4月時点）	基幹相談支援センター数	4	か所	
	一般相談支援事業所数	7	か所	
	特定相談支援事業所数	52	か所	
保健所数（R6年4月時点）	1	か所		
（自立支援）協議会の開催頻度（R5年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	2	回/年	
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R6年4月時点）	都道府県	無	か所	
	障害保健福祉圏域	無	/	か所/障害圏域数
	市町村	有	1 / 1	か所/市町村数

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

### 「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」

「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の構築を進めるため、保健・医療・福祉関係者が、互いに連携しながら、支援方策、役割等を検討し、また、顔が見える関係性を構築しながら、地域づくりに向けた課題などを協議する場を設置。（令和2年度～）

#### 【委員構成】令和6年度 委員17名

より当事者目線での協議ができるよう、既存の会議（「精神障がい者の地域生活を考える関係機関連絡会運営委員会（※）」）の委員に当事者、家族などを加え拡充

（※）平成26年度から設置。官民協働、多職種で構成された委員で、関係機関職員の人材育成とネットワーク構築を目的に、毎年研修会等の企画・運営を行ってきた

- ・当事者（2名） ・家族（2名） ・精神科医（病院及びクリニックの院長） ・看護師 ・精神保健福祉士
- ・相談支援事業所の相談支援専門員 ・基幹相談支援センター相談員 ・大学教員
- ・障がい者就業支援センター相談員 ・地域包括支援センター管理者 ・市社会福祉協議会CSW 等

#### 【運営方法】

・「全体会」 地域の課題や各事業の成果等を評価し、支援体制や地域基盤の整備等について検討。  
（年2回）

・「ワーキンググループ」 全体会での協議を受け、地域課題の解決に向けた具体的な取り組みを検討。  
（年20回程度）

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

# 「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」 ワーキンググループ

- ▶令和2年度から、3つのワーキンググループを立ち上げ、活動中
- ▶ワーキンググループには、「考える会」の委員以外の当事者、家族も参加

<p><b>①人材育成班</b> 班員4名 (当事者、精神科病院看護師、精神科病院PSW、基幹相談支援C相談員)</p>	<p>平成26年度から実施している人材育成のための研修会や社会資源見学ツアー等を継続するとともに、人材育成や普及啓発のための新たな取り組みについて検討する。</p>
<p><b>②ピア活動班</b> 班員6名 (当事者3名、家族、精神科クリニックPSW、基幹相談支援C相談員)</p>	<p>孤立しない・させない支援体制づくり、話し相手や仲間づくりが必要であることから、ピア活動について検討する。</p>
<p><b>③企画・調査班</b> 班員4名 (当事者、家族、大学教員、相談支援専門員)</p>	<p>地域で生活する精神障がい者が、何に困っているのか、何を望んでいるのか等を具体的に知るために、地元の大学と連携し、調査研究を行う。各種調査の分析結果から、さらなる調査の実施も含め、にも包括構築に資する新たな取り組みについて検討する。</p>

### 3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯①

平成19年度	「新潟県退院促進支援事業」開始
平成23年度	「新潟市地域移行・地域定着支援事業」開始 地域体制整備コーディネーターの配置（～平成26年廃止）
平成26年度	「新潟市精神障がい者の地域生活を考える関係機関連絡会」開始 ▶地域移行・地域定着支援研修会（平成26年～ <b>継続中</b> ） ▶社会資源見学ツアー（平成26年～令和2年） ▶精神科病院情報交換会（平成26年～ <b>継続中</b> ） ▶当事者による普及啓発活動（平成28年～令和元年） 他
平成29年度	「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業」 国庫補助申請開始 ▶当事者活動記録の作成（令和元年） 他
令和2年度	「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」（協議の場）を設置 ワーキンググループの立ち上げ「人材育成班」「ピア活動班」「企画・調整班」 ＜各ワーキンググループによる事業実施＞ ▶当事者等交流会（令和2年） 他

## 3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯②

令和3年度

「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」(協議の場)及び  
ワーキンググループ「人材育成班」「ピア活動班」「企画・調整班」の取組推進

<各ワーキンググループによる事業実施>

- ▶オンラインによるミニ研修「みんなde研修会」(令和3年～**継続中**)
- ▶当事者・家族・支援者による合同相談会「みんなdeピア相談会」(令和3年～令和4年)
- ▶当事者等交流会「みんなdeピア交流会」(令和3年～**継続中**)
- ▶家族・当事者へのインタビュー調査の実施(令和3年～令和6年)
- ▶精神科訪問看護ステーションリストの作成(令和3年～**毎年度更新中**) 他

令和4年度

「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」(協議の場)及び  
ワーキンググループ「人材育成班」「ピア活動班」「企画・調整班」の取組推進

<各ワーキンググループによる事業実施>

- ▶精神科訪問看護ステーションの課題把握調査(令和4年～令和5年) 他

「心のサポーター養成研修にいがた」の実施開始(令和4年～**継続中**)

令和5年度

「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」(協議の場)及び  
ワーキンググループ「人材育成班」「ピア活動班」「企画・調整班」の取組推進

<各ワーキンググループによる事業実施>

- ▶当事者へのアンケート調査の計画(令和5年～**継続中**) 他



## 4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和5年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R5年度当初)	実績値 (R5年度末)	具体的な成果・効果
①新潟市精神障がい者の地域生活を考える会(全体会)の開催回数	2回	2回	地域課題に向けて取り組む各ワーキンググループ活動の評価を行い、できていること、今やるべきこと、これからできることなどについて協議した。
②地域移行・地域定着支援研修会の開催回数	4回	4回	毎年継続して開催していることで、支援者の人材育成に寄与している。 オンラインによる「みんなde研修会」も3回開催し、身近なテーマで気軽に参加してもらうことができた。
③当事者団体等との共同事業の開催回数	4回	4回	当事者向け、家族向け、精神科病院患者・職員向けの交流会を開催し、参加者が思いを共有したり、新たなつながりをつくったりすることができた。
④市内の精神障がい者の地域生活の実態・ニーズ把握のための調査実施・分析	インタビュー調査の実施・分析、アンケート調査の計画	インタビュー調査の実施・分析、アンケート調査の計画	R3～4年度に実施した家族インタビュー調査、精神科訪問看護ステーションの課題把握調査の分析を行いつつ、当事者インタビュー調査を実施した。今後、調査の分析結果をもとに新たな取組の必要性などについて検討。また、当事者に対する大規模なアンケート調査の実施を計画した。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】 協議の場として設置している「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」には、複数の当事者と家族が委員及びワーキンググループ活動に参画しており、当事者目線での意見を取り入れて協議を行っている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
(1) 住まいの確保・居住支援  (2) 必要な人へ届く情報発信  (3) 居場所の必要性	「孤立しない、させない地域づくり、人づくり」 「当事者・家族・支援者間のネットワークの強化」  ▶地元の大学と連携し、当事者や家族を対象とした住まい・暮らしの現状に関する調査研究を行う ▶多様な手段での情報発信について検討 ▶当事者・家族同士等のつながりのきっかけ作りとなるよう当事者等交流会「みんなdeピア交流会」を開催 ▶障がい者地域自立支援協議会(精神障がい部会)との連携を図る	行政	当事者・家族・医療・福祉・大学(教育・研究機関)・行政などの関係機関が連携し共に取り組む
		医療	
		福祉	
		関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和6年度末)	見込んでいる成果・効果
①考える会(全体会)の開催回数	年2回 (R5年度実績)	年2回	地域課題に向け取り組むワーキンググループ活動についての評価、さらなる地域課題の抽出
②人材育成研修の開催回数	年4回 (R5年度実績)	年4回	地域の支援者の人材育成、精神障がい、精神疾患の普及啓発、顔の見える関係づくり
③当事者団体等との共同事業の開催回数	年4回 (R5年度実績)	年4回	孤立しない、させない支援体制の構築 当事者、家族、支援者間のネットワークの強化
④心のサポーター養成研修の開催回数	年2回 (R5年度実績)	年3回	一般市民への精神障がい、精神疾患の普及啓発



## 6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

### 【にも包括構築の体制】

地域の当事者・家族・保健・医療・福祉関係者による協議の場として立ち上げた「新潟市精神障がい者の地域生活を考える会」を軸に、にも包括構築の推進を目指している。年2回の「全体会」と3つのワーキンググループ「人材育成班」「ピア活動班」「企画・調査班」で運営しており、全体会で出された地域課題について、各ワーキンググループを中心に取り組みを進めています。

所管部署名	所管部署における主な業務	連携部署名	連携部署における主な業務
保健衛生部 こころの健康センター	協議の場の事務局	福祉部 障がい福祉課	協議の場に事務局側として参加 障がい者地域自立支援協議会の事務局

各部門の連携状況		強み・課題等
保健	区役所地区担当保健師と、個別ケースの支援を通じて連携している。	より身近な区役所での精神保健に関する相談指導等の体制づくりを検討していく必要がある。
医療	医師、看護師、PSWなど医療機関からも協議の場の委員に就任してもらっている。研修会や当事者交流会など医療機関にも広く呼びかけ、地域の取組などについて情報発信している。	地域の支援者と医療機関との顔の見える信頼できる関係づくりが課題。
福祉	他機関・多職種から協議の場の委員に就任してもらっている。精神障がい者支援について、消極的な事業所もあるのが現状。	個別ケースの支援を通じての連携も多いため、顔の見える関係づくりができてきている。 障がい者地域自立支援協議会や介護・高齢者福祉関係者、居住支援関係者との連携強化が課題。
当事者・家族	ピア活動班に入っただき、当事者や家族向けの交流会「みんなdeピア交流会」の企画・運営に従事してもらっている。	当事者や家族目線での意見をダイレクトに研修会や交流会等の企画に反映できる。
大学	大学教員にも企画調査班に入っただき、各種調査研究を実施しており、市内の精神障がい者の実態把握に努めている。	地元の大学と連携し、調査研究ができる。各種調査結果をもとに、住まいの問題への取組について検討していく必要がある。

## 7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
新潟市精神障がい者の地域生活を考える会 (全体会)	当事者・家族・精神科医・精神科病院看護師・精神保健福祉士・相相談支援専門員・基幹相談支援センター相談員・大学教員・障がい者就業支援センター相談員 等	年2回	各ワーキンググループの活動状況の評価を行い、にも包括構築の進捗状況について協議する。	複数の当事者・家族が委員にいるため、当事者目線の意見をとり入れることができる。
(ワーキンググループ) 人材育成班	当事者、精神科病院看護師、精神科病院PSW、基幹相談支援C相談員	月1回	地域の支援者等の人材育成のための研修会などについて検討し実施する。	研修会を毎年継続しており、また内容や開催方法などを工夫し参加しやすくしているため、毎年地域の支援者から好評である。
(ワーキンググループ) ピア活動班	当事者、家族、精神科クリニックPSW、基幹相談支援C相談員	年6回	孤立しない・させない支援体制づくり、話し相手や仲間づくりのための交流会などを企画し実施する。	ワーキングメンバーに当事者が3人おり、積極的に意見を出したり、交流会で自ら体験発表を行うなど活躍の場となっている。
(ワーキンググループ) 企画・調査班	当事者、家族、大学教員、相談支援専門員	年3回	地域生活をする上での課題などについて調査を行い、新たな取組の必要性について検討する。	調査結果の分析や今後の取組にどう結び付けていくかが今後の課題である。

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

## 8

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた  
スケジュール（今年度）①

## 【新潟市精神障がい者の地域生活を考える会】

	時期	実施項目	内容
全体会	5月	第1回 考える会 全体会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ワーキンググループの活動報告及び評価</li> <li>・本市におけるにも包括構築の進捗状況について</li> <li>・心のサポーター養成研修について</li> <li>・入院者訪問支援事業について</li> </ul>
	11月	第2回 考える会 全体会	
人材育成班	8月 10月 2月	みんなde研修会 ①②③ ＜1時間のミニ研修会＞ オンライン	<p>①「いまさら聞けない！？ピアサポート活動って？」 新潟市障がい者基幹相談支援センター 相談員 当事者3名（リカバリーストーリーの発表あり）</p> <p>②「神経発達症（発達障害）とパーソナリティ症（パーソナリティ障害）～精神疾患の背景にある特性について～」 精神科病院 院長</p> <p>③「いまさら聞けない！？社会福祉協議会って？」（予定） 市社会福祉協議会 CSW</p>
	12月	地域移行・地域定着 支援研修会 ＜当事者、家族、支援者等 を対象とした研修会＞ 会場参集型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告</li> <li>・講演「当事者と共に安心できる場を作るために ～包括的暴力防止プログラム（CVPPP）の視点から～」</li> <li>・グループワーク</li> </ul>

## 8

## 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けたスケジュール（今年度）②

	時期	実施項目	内容
ピア活動班	9月 11月 3月	みんなdeピア交流会 ①当事者向け ②家族向け ③当事者・家族・支援者向け ④精神科病院患者・職員向け	①②当事者同士、家族同士がざっくばらんに話をする場を提供。 ③当事者・家族・支援者等がお互いの思いを理解し、つながりや支援の輪を広げる場を提供。 ④精神科病院において、地域で生活している当事者の体験発表などを行い、入院患者や病院職員が退院後の地域生活を考えるきっかけ作りとする。
企画調査班	—	当事者を対象としたアンケート調査の実施	市内に居住する18歳以上の精神障がい者保健福祉手帳所持者1,503名を対象にアンケート調査票を郵送し、地域生活に関する実態調査を行う。
	—	当事者を対象としたインタビュー調査の分析・報告	令和4年から継続中。長期入院を経験した精神障がい者の地域生活継続における課題と今後の生活への思いに関するインタビュー調査の分析と報告を行う。
	—	精神科訪問看護ステーションリストの更新	市内の精神科訪問看護ステーションリストを更新し、ホームページに掲載する。

【心のサポーター養成研修】 一般市民を対象に、年3回（8月、9月、10月）開催